

5手法 × 22項目 詳細比較表（1/2）

A. 導入 B. 使い勝手 C. 分析能力 | 評価：🟢 強み 🟡 実用十分 🟠 条件付き 🔴 不向き ※2026年8月時点・ga4.guideでの検証に基づく

項目	① CSVダウンロード+貼り付け	② GA4公式API × MCP	③ BigQuery × MCP	④ Conversational Analytics	⑤ GA4内蔵AI機能
A. 導入					
1. 初期設定の所要時間	🟢 ゼロ。今すぐ開始できる	🟢 30分～1時間（認証+MCP設定）	🟠 半日～。BigQueryリンク設定+データ蓄積待ち	🟠 数時間～。データエージェント定義の作成	🟢 ゼロ。GA4を開けば使える
2. 必要な権限	🟡 GA4の閲覧者権限のみ	🟡 GA4の閲覧者権限+APIの有効化	🟠 GA4編集者+GCPプロジェクトのIAM権限	🟠 GCP権限+（Looker利用時）Looker権限	🟡 GA4の閲覧者権限のみ
3. 必要スキル	🟢 GA4の基本操作のみ	🟡 MCPの概念理解。SQL不要	🟠 SQLの読解力（AIが書くが検品は人間）+ GA4のBQスキーマ理解	🟡 自然言語のみ。ただし構築側には意味定義スキルが必要	🟢 GA4の基本操作のみ
4. 初期費用	🟢 無料（AIサービス利用料のみ）	🟢 無料（AIサービス利用料のみ）	🟠 BigQuery自体は無料枠あり。構築工数がコスト	🟠 Gemini for Google Cloud等のライセンス体系を要確認	🟢 無料（GA4標準機能）
5. ランニング費用	🟡 AIの従量/定額のみ	🟡 AIの従量/定額のみ（APIは無料枠内が多い）	🟠 クエリスキャン課金。パーティション指定を怠ると高額化	🟠 ライセンス+クエリ費用	🟢 なし
B. 使い勝手					
6. 学習コスト（使う側）	🟢 ほぼゼロ	🟡 低い。「日本語で聞くだけ」に近い	🟠 SQL検品の習慣化が必要	🟡 低い。ただし「聞ける範囲」の把握が要る	🟢 ほぼゼロ
7. 分析1回にかかる時間	🟠 エクスポート+整形の手作業が毎回発生	🟢 質問して数十秒～数分	🟡 数分（SQL生成+実行+検品）	🟢 質問して数十秒	🟢 即時（表示されている）
8. 深掘りの往復のしやすさ	🔴 追加の切り口ごとに再エクスポート	🟢 会話の中でAIが自律的に取り直す	🟢 会話の中でSQLを書き換えて追跡	🟠 単発の質問は得意。連続的な仮説検証は苦手	🔴 定型の範囲を出られない
9. 日本語での精度	🟡 利用するAIに依存（総じて高い）	🟡 利用するAIに依存（総じて高い）	🟡 利用するAIに依存。SQLコメントも日本語可	🟠 改善中だが、複雑な日本語の意図解釈は発展途上	🟠 質問機能の日本語理解は発展途上
10. 誰が使えるか	🟢 全員	🟡 分析担当～マーケター	🟠 アナリスト・エンジニア寄り	🟢 営業・事業部まで配布可能（構築後）	🟢 全員
C. 分析能力					
11. 扱えるデータ粒度	🔴 画面で集計済みの表のみ	🟡 ディメンション×指標の集計値（API粒度）	🟢 イベント単位の生ログ。セッションを自由に再定義可	🟡 接続したテーブルの粒度（BQなら生ログ）	🔴 定型レポートの粒度のみ
12. 期間・軸の自由度	🟠 エクスポート時に固定される	🟢 期間・軸・フィルタを会話で自在に変更	🟢 完全に自由（SQL次第）	🟡 高い（エージェントの定義範囲内）	🔴 レポートの設定に従う
13. 他データとの結合	🟠 別CSVを併せて貼れば簡易結合は可能	🔴 GA4データ単体（別MCP併用で補完は可）	🟢 CRM・受注・広告データ等とSQLでJOIN	🟡 BQ上にあるデータ同士なら可	🔴 不可
14. サンプリング・しきい値の影響	🟠 探索レポート由来だとサンプリングの影響を受ける	🟠 Googleシグナル有効時のしきい値・(other) 行の影響が残る	🟢 影響なし（全件データ）	🟢 BQ接続なら影響なし	🟠 標準レポート準拠
15. 統計的な処理	🟡 貼った範囲でAIが計算可能	🟡 取得データに対してAIが計算可能	🟢 SQL+AIで検定・分布分析まで可能	🟠 基本集計中心	🔴 不可（異常検知は内部で統計処理）

5手法 × 22項目 詳細比較表（2/2）

D. 制限・リスク E. ガバナンス F. アウトプット + 使い分けの結論

項目	① CSVダウンロード+貼り付け	② GA4公式API × MCP	③ BigQuery × MCP	④ Conversational Analytics	⑤ GA4内蔵AI機能
D. 制限・リスク					
16. データ量の上限	✖ 行数・AIのコンテキスト上限に依存	○ API上限内（1リクエスト最大10万行等）。実用上は十分	◎ 事実上なし	◎ 事実上なし	○ 画面表示の範囲
17. API・クエリ制限	○ なし	△ Data APIのクォータ（同時リクエスト・トークン）。通常利用ではまず当たらない	△ スキャン量課金が実質の制限。要パーティション設計	△ クエリ費用+ライセンス上限	○ なし
18. 誤答リスクと検知しやすさ	✖ コピペミス・列ズレは気づきにくい。AIの推測も検証しづらい	○ 取得条件（軸・期間・フィルタ）がログに残り検証可能	○ SQLが残るため再現・検証可能。ただし誤SQLの見逃しに注意	○ 生成されたクエリを確認可能	○ Google側の計算のため誤りは少ないが、解釈の幅も狭い
19. データ鮮度	✖ エクスポートした時点で固定	◎ 毎回その場で取得（当日データも概ね反映）	○ 日次エクスポートは翌日反映。intradayテーブルで当日も可	○ BQの反映タイミングに準拠	◎ 管理画面と同じ鮮度
E. ガバナンス					
20. データの外部送信	✖ あり（貼った内容がAI事業者へ）	✖ あり（取得結果がAI事業者へ）※API/Enterprise契約の学習不使用設定で緩和可	✖ あり（クエリ結果がAI事業者へ）※同左	◎ なし。Google Cloud内で完結	◎ なし。GA4内で完結
21. 権限管理・監査	✖ 誰が何を貼ったか追跡不能	△ GA4側のアクセスは追えるが、AI側の利用管理は組織のAI利用規程に依存	○ BigQueryの監査ログでクエリ履歴を完全に追跡可能	◎ GCPのIAM+監査ログで一元管理	○ GA4のユーザー管理に準拠
22. 社内展開のしやすさ	○ 手順書1枚で展開可能。ただし品質はバラつく	○ MCP設定の配布が必要。プロジェクト共有で知識も揃えられる	△ 展開対象はアナリスト層に限定するのが現実的	◎ 構築後は非分析職まで広く配布できる	◎ GA4を開ける人全員にそのまま届く
F. アウトプット					
23. 表・グラフ生成	○ AIに指示すれば可能	◎ 取得→整形→グラフ化まで一気通貫	◎ 同左（生データからの独自集計グラフも可）	○ 標準的なグラフを自動生成	✖ 表示済みのものだけ
24. 資料（レポート/スライド）化	○ 要約文の作成までは得意	◎ 分析→考察→スライド/レポート生成まで可能	◎ 同左。本セミナー資料もこの構成で作成	✖ 不得手（分析回答まで）	✖ 不可
25. チーム共有・再現性	✖ 属人的。同じ分析の再現が難しい	○ プロンプトと会話ログで再現可能	◎ SQLが資産として残る。最も再現性が高い	○ エージェント定義がチームの共通基盤になる	○ 全員が同じ画面を見る前提なので共有は容易

使い分けの結論（推奨の組み合わせ）

- 基本形は②：設定コストに対して得られる分析力が最大。アドホック分析の主力に
- 生データ・結合が必要なとき③：四半期レビュー、施策の因果検証、他データ突合
- データを外に出せない組織は④：ガバナンス要件が選定理由になる唯一の手法
- ⑤は常時ON：①～④と競合しない「監視役」。気づき→②③で調査の流れを作る
- ①は入口として：まず体験するには最適。本格運用の前段と割り切る

どの手法を選んでも共通で効くこと

分析精度を最も左右するのは手法選択ではなく、**サイトの前提知識（サイト定義書）をAIに与えているか**です。目的とKPI・主要ページの役割・計測仕様・平常時のベンチマーク・施策履歴をA4 1～2枚にまとめ、AIの常設知識（プロジェクト機能等）に置くことから始めてください。テンプレートは配布物②を参照。